こんぶくろ池通信

2026 年 11 月
第 151 号

NPO 法人こんぶくろ池自然の森
Tel: 04-7132-8800
Fax: 04-7132-8806
Email: info@konbukuroike.com
URL: http://www.konbukuroike.com

主な予定

11 月 6 日（金）
9:00～12:00
アドバイザー会議
於：柏区画整理事務所

12 月 5 日（土）
14:00～15:00
戦争遺跡ガイドツアー

クモっておもしろい
～9 月 23 日　クモの観察会報告～

作田 善久

今年の 9 月は雨の日が続きましたが、9 月 23 日は雨もなくクモの観察会を行うことができました。講師には、千葉県生態系研究所所長、NPO 法人自然観察大学学長の 浅間茂先生をお迎えし、10 組 24 名の参加者と一緒にクモの調査と観察を行いました。NPO からは池田、上田、川瀬、佐藤ち、佐野、塚本、横川、米村、和田、作田の 10 名が参加しました。

開会式後、浅間先生からプリントを使ってクモについて簡単に説明がありました。その後、管理棟前で観察、園内を歩きながらの観察、そしてめいめいが自由に観察・調査を行いました。


イオウイロハシリグモのまどい


コガタコガネグモ

クモというと、こども達にとってはとっつきにくい生物だと思っていましたが、参加者は最初から精力的にクモを探しました。先生からお借りしたフィルムケースにクモは簡単に入ります。１匹見つけては、浅間先生に見ていただき、クモの名前を教えていただきました。浅間先生は「ジョロウグモ」「ゴミグモ」などとさっとクモの名前を答えられ、参加者はいろんなクモがいることを知り、「もっと別のクモを探したい」と親子で懸命に探しました。普段の生活では、虫の姿を見ただけで「キャー」と大騒ぎをするこどもが多い中、参加者の生物に対する関心の高さに感心させられました。もともと生物への関心の高いこども達だったと思いますが、一緒に参加された保護者の皆様の関心の高さがこども達にも影響していたように思います。さらに的確に名前を言われる浅間先生の専門性により、こども達の意欲がいっそう高まったようです。

さて、園内を歩いての調査です。いろんな種類のクモが見つかりました。浅間先生は、めずらしいクモやめずらしい生態があると立ち止まって説明していただきました。霧吹きをかけるとクモの巣は見やすくなります。イオウイロハシリグモの「まどい」をつつくとクモの子が一斉にちらばります。「蜘蛛の子を散らす」という慣用句はこのような子グモの様子から生まれた言葉だそうです。

その後、管理棟前に戻ってから、めいめいが自由に調査をしました。管理棟前で他のクモを採集する参加者、もう一度園内に入って採集する参加者もいてあっという間に時間が過ぎまし


セアカゴケグモ

た。浅間先生は、採集したクモを命名され、一匹ずつカップに入れられました。藤棚の下のテーブル下からはセアカゴケグモが見つかり、一気に関心が集まりました。柏市ではセアカゴケグモは平成 27 年 10 月 1 日に初めて発見されたそうですが、こんぶくろ池自然博物公園で見つかったのは初めてです。アルコール漬けにして保存しました。

今回、公園で見つかったクモは 35 種で、環境評価では 39 点。36 点以上の A（林・草地・水辺があり、よい自然環境を保っている。自然公園。）ということでした。


浅間先生の説明を聞く参加者


採集したクモを分類

＜気づいたこと＞

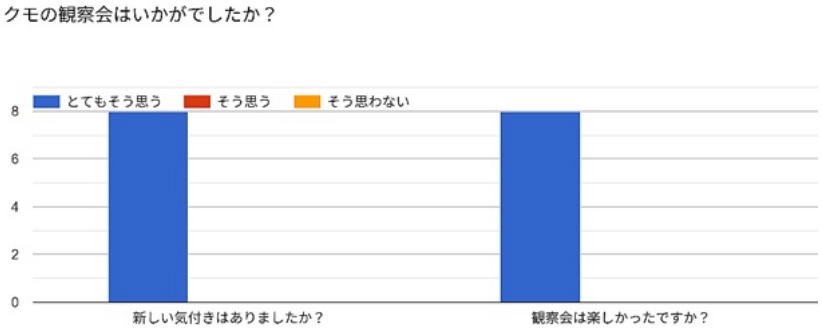
・マイクを用意していましたが、浅間先生は「自然の中だからマイクは使わない」とおっしゃられ、マイクなしで説明されました。園路の調査では聞き取りにくいこともありましたが、ほぼ理解することができました。参加者数もちょうどよかったと思います。
・自由調査の時には、クモをカップに入れ名前を付けたので採集したクモを整理することができました。園路では、見つかったクモを自分なりにメモしていましたが、最初からカップに入れて名前の付箋をつけるようにするとよかったのではないかと思います。その担当を始めから決めておくと NPO の参加者の役割も明確になります。
・身の回りにいるけれど見過ごしている生物はたくさんいます。今回のように専門家の方と一緒に調査することにより、参加者は知的好奇心をくすぐられたように思います。このような機会の大切さを改めて感じました。来年の観察会が楽しみです。

＜参加者の感想＞

・クモによって巣の張り方も、餌の取り方も違うことが学びになった。家族で楽しい時間を過ごせた。
・とても楽しかったです。自然の中でこども達もよく観察していました。まさか蜘蛛を自分で捕まえられるとは思っていませんでした。
・とても興味深かったです。短時間でかなり多くの種が発見でき、驚きました。
・35 種 39 点の多様な生態系があった。蜘蛛を探すのが楽しかった。

・クモの世界の奥深さと環境との関連を感じることができてとても気づきの多い時間を過ごすことができました。ありがとうございました！
・ていねいな説明にとても楽しい時間を過ごせました。
・去年も参加させていただきましたが、生態系の環境が去年より良くなっていることに驚きました。

＜アンケート結果＞



観察会記録
【クモによる環境評価（浅間茂氏）について】
方法：1 種類につき 1 点を付与。次のクモはボーナス点がつく。
ボーナス点 5 点：コガネグモ（大きな円網を張り、環境の良い草地に生息）
ボーナス点 3 点：トリノフンダマシ類（山地性のクモであるが林縁に生息。オオトリノフンダマシ、トリノフンダマシ、シロオビトリノフンダマシなど）
環境評価：
A（36 点以上）　林・草地・水辺があり、良い自然環境を保っている。自然公園。
B（26～35 点）　水辺など湿地があり、環境に多様性が見られる。多様性のある公園。
C（16～25 点）　建物の隙間に樹木が見られ、草が生えている。都市の中の公園。
D（8～15 点）　市街地であるが、地面はコンクリートだけでなく、草が生えている。
E（0～7 点）　植物の生えている面積が少なく、建物に依存するクモが生息している。

こんぶくろ池自然博物公園での、クモによる環境評価の変遷

実施日	2010/10/14 15:30-16:30 浅間茂氏	2017/9/10 クモの観察会	2024/6/15 10:00-12:00 クモの観察会	2025/10/5 10:00-12:00 クモの観察会	2026/9/23 10:00-12:00 クモの観察会
環境評価	**A（41）**	**？**	**A（37）**	**B（35）**	**A（39）**
種数	**37**	**？**	**37**	**35**	**35**

2026 年度クモの観察会で確認したクモ

アシナガグモ科	アシナガグモ	ササグモ科	ササグモ
	オオシロカネグモ	ジグモ科	ジグモ
カニグモ科	アズチグモ	ジョロウグモ	ジョロウグモ
	ガザミグモ	タナグモ科	コクサグモ
	キハダカニグモ		クサグモ
	ハナグモ	ハエトリグモ科	マミジロハエトリ
	ワカバグモ		シラヒゲハエトリ
	カニグモ sp.		チャイロアサヒハエトリ
キシダグモ科	イオウイロハシリグモ		アオオビハエトリ
コガネグモ科	コガネグモ（環境評価 5 点）		ハエトリグモ sp.
	コガタコガネグモ	ヒメグモ科	シロカネイソウロウグモ
	ナガコガネグモ		オナガグモ
	ゴミグモ		ヒメグモ sp.
	ギンメッキゴミグモ		オオヒメグモ
	サツマノミダマシ		セアカゴケグモ
	ワキグロサツマノミダマシ	ヒラタグモ科	ヒラタグモ
	ヤマトカナエグモ	フクログモ科	フクログモ sp.
コモリグモ科	ウヅキコモリグモ		

「親子でチャレンジ！ 里山の森づくり体験と森遊び」を開催して

海野 直樹

当園は柏の葉という都会の中にあって、貴重な自然環境を有する自然公園です。ここ最近の当園主催の観察系以外のイベントでは、予め準備された材料を使った屋内でのクラフト系のイベントが多く、実際に森の中に入っての自然体験や遊び体験はあまりありませんでした。また、里山体験会はあってもそのイメージは主として大人向けでした。森の資源を活用して子供も参加し、自然体験ができるイベントはできないかと常々考えていました。そこで考えたのが親子セットで里山の整備作業と遊びを体験いただくイベントでした。

子供の自然体験には、一緒に共感、感動してくれる大人（親）が必要です。森の中で親子で体験した遊びは、後に親子で再現することができます。共通の思い出作りにも繋がります。

イベント内容は理事の皆様とも相談し、森の中での里山活動と遊び体験、後半にスギ丸太の輪切り体験を実施することにしました。安全対策として全員にヘルメット（自転車用可）を着用していただき、道具はノコギリを使用します。ノコギリは危険を伴いますが、里山体験を実感していただく上では必要と考え、予め安全対策を徹底し、必ず親子で作業してもらうこととし、使用することとしました。

9 月 27 日開催に向け、８月中にスギの伐採と丸太の切り出し、玉切台２台の製作、ヘルメット、ノコギリの準備を終えました。ありがたいことに 12 名の会員の皆様がスタッフとしてご参加いただけることになりました。9 月初旬にリハーサルを実施し本番に臨みました。

本番当日、7 組 15 名の親子に参加をいただきました。当園の説明、ノコギリの扱いを含め諸注意事項の後、横川さんにパネルを使って当園の動物の紹介をしていただきました。足元のウサギのフンで動物の存在を実感していただきます。

森遊びの最初は管理棟横のイネ科雑草を使っての「おがみ笛」体験です。吹き方によって色々な音が出せます。親子には「今吹けなくても吹き方を覚えておけば、あとで親子で何回でも遊べますよ」と言いました。森に入っていき、作業地にてノコギリを使用してアオキの伐採を体験いただきます。スタッフの皆さんが１組ごとに寄り添ってサポートしてくれています。伐採したアオキの葉っぱを採取し、その場でハサミとシールを使って葉っぱクラフトを３種体験いただきました。「森のミミズク」「葉っぱのサンダル」「葉っぱの手紙」、ここでもスタッフの皆さんに丁寧にサポートいただきました。親子の楽しい会話があふれていました。ある女の子は「ママへ　ママだいすき」と葉裏に書いて母親に見せていました。続いて園路を進み、シラカシの樹の前で葉っぱを採取して、草笛第２弾「巻き笛」体験です。シラカシの葉っぱを丸めて吹くと、吹き方、巻き方によって様々な音が出せます。吹けた親子は親子でデュエットをしています。更に園路を進み、ムクノキやスギを巻き込んで倒れているナラ枯れ被害木の場所で、死んでいく樹、必死に生きようとしている樹、新たなギャップで芽生える草本・低木等を観察してもらい、森の自然な循環について解説しました。



その後は管理棟に戻り、最後にスギ丸太の輪切り体験です。ノコギリを使って丸太を玉切りし、ベルトサンダーで仕上げたのちに、最後は自分でヤスリがけし、お土産で持って帰ってもらいます。子供たちは最初は慣れない手つきで悪戦苦闘していました。親もスタッフの皆さんも親身に指導し励まします。最後に何とか伐り終えると周りの全員が拍手で称えます。勢いに乗った子供たちは再び他の丸太に挑戦します。親も丸太切りに参戦します。親子の良い思い出作りになったことと思います。





最後に 10 月からの里山体験会のご案内をし解散しました。子供たちから「楽しかった」、あるお母さんは「丸太切りで私もストレス発散できました」、別のお母さんからは「スタッフの皆さんが本当に親切にしてくださって楽しめました」などコメントをいただきました。終了後のアンケートには全員が回答いただきました。概ね皆様満足いただけたようでした。今後の開催イベントとして「遊びを通した自然体験」「木工クラフト」の希望が多かったようです。

今回は久々の里山系のイベントでした。準備の苦労はありましたが、親子が楽しんでいる様子を見て実施してよかったと思いました。アンケートを参考にし、今後「親子でチャレンジ」をシリーズ化して、また何らかの形で開催できたらと思います。当園の貴重な自然環境をもっと自然教育、環境教育に生かしていきたいと思います。

最後に、今回スタッフとしてご支援いただきました会員の皆様、皆様のご理解、ご支援がなければここまでの内容で開催することはできませんでした。生憎の雨中でのリハーサルにもほぼ全員のスタッフの皆様にご参加いただき心強く感じました。心より感謝申し上げます。

新入会員紹介　川瀬 幹太さん



参加動機：自然や生き物が好きなため。専攻との関係で環境倫理（特に生物多様性）に関心があり、実際に自然に触れたかったため。

趣味・好きなこと：ピアノ（Bach が好きです）

貢献できそうなこと：公園整備、調査（動植物、鳥など）、事務、会計

取り組んでみたいこと・分野：生き物の名前をたくさん覚えられるように頑張ります。

ひとこと：現在大学４年生で、来年からは大学院に進学する予定です。よろしくお願いします。